

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.771 2017

2017年11月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料62円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
TEL：03-5367-6640 FAX：03-5367-6641
URL：http://www.ymcajapan.org/
発行人／神崎 清一 編集人／山根 一毅
印刷／あかつき印刷株式会社



Be the Change ～ポジティブネット～

いじめ、貧困、差別、自殺、災害……。私たちの身近な社会には多くの問題があります。また世界に目を移せば、平和が民族紛争や軍事力、そして予期せぬ経済の変動によって脅かされ、さらには飢餓や貧困、気候変動など、人類はさまざまな困難を抱えながら、この地球で生活を営んでいます。

私たちYMCAが、互いを認め合い、高め合うことのできる、人の善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク「ポジティブネット」を考えると、社会の課題や困難にしっかりと目を向け、私たちがいかに行動すべきかを選び取ることを求められます。

YMCAの活動で何かが見つかり、誰かとつながる。そして私が良くなる。その先にあるのは、地域、全国、そして世界へと広がるYMCAのネットワークを通して、私たちの社会を、誰もが生きやすい、希望ある豊かな社会へと変えていける大きな可能性なのです。

今号では、YMCAのさまざまな活動の中でも、ポジティブネットの広がりの可能性について紹介したいと思います。



グローバル・ギャザリングにて。世界のユースのネットワークが生まれている

世界の未来はユースの手で ～チェンジ・エージェント～

「世界には、健全な心身を脅かされ、自信を喪失しながら、生きる気力を失っている若者が大勢います。そんな若者に学びと活動の場を提供し、自分の可能性を信じて社会の変革を担う存在となれるよう勇気づける（＝ユース・エンパワーメント）。YMCAがこれからも力を注いでいくことです」

ヨハン・エルトヴィック世界YMCA同盟総主事によるこの言葉は、世界中のYMCAに所属するチェンジ・エージェントと呼ばれるユースの取り組みによって世界規模で実現されています。2017年9月にポルトガルで行われたトレーニング（グローバル・ギャザリング）には世界50カ国から150人のユースが集まり、日本からも中田美沙希さん（横浜YMCA）、四宮捷平さん（神戸YMCA）、桑原ケビンさん（広島YMCA）の3人のチェンジ・エージェントが参加しました。彼らは世界の仲間とつながりながら、自分の足元からユース・エンパワーメントと社会の変革に向けた取り組みを始めています。日本のYMCAに集うすべてのユースにこのような世界への扉が開かれています。

より良い生き方に気付く ～国際ワークキャンプ～

紛争や災害によってもたらされる危機は、常により弱い立場の人びとや国々へと向かいます。日頃から子どもたちのために活動するYMCAのユースリーダーは、子どもたちに寄り添い、心や体の成長に影響を与え、共に笑顔になれる素晴らしい存在です。国際ワークキャンプはそんな彼らを中心に、特に多くの困難を抱える海外に赴き、現地のユースと共に地域での活動を行います。そして国や民族を超えた「地球」というコミュニティで出会い、つながり、より良い生き方を選択していきます。形や数字では表せませんが、私たちの社会は確かにより良い姿へと変えられていきます。



子どもたちにとってリーダーはかけがえのない存在

災害時に大きな力を発揮する ～被災地支援～

2016年4月に起きた地震によって大きな災害を被った熊本県。避難者の数は一時18万人を超え、被災地は混乱を極めました。被害の大きかった益城町と御船町では、避難所となった体育館の指定管理者として運営をしていた熊本YMCAを中心に、全国のYMCAからスタッフ・ボランティア・学生が集まり、医療や福祉の専門職、建築家、さまざまな分野のNPOなどと共に、「すべての命を守る」という視点で避難所の環境を整えました。YMCAの専門性や災害対応の経験と同時に、多種多様な個を受けとめ、誰にとっても開かれた存在であるYMCAのパーソナリティが他の専門的な力を紡ぎ合わせる力を発揮しました。



高齢者の方がたの避難生活を支え、健康を維持する



あらゆるバリアを越え、皆が参加できるチャリティーランに

世界中どこに暮らそうと ～FCSC チャリティーラン～

世界ブランドとしてのYMCAは、海外から日本に来て暮らす多くの人びとも親しみのある組織です。1958年に北米YMCAとニュージーランド大使館の呼び掛けにより、日本在住のビジネスパーソンや各国大使によって始められた国際賛助会 (Foreign Community Supporting Committee) は60周年を迎える今も、YMCAによる障がい児プログラムへの支援を中心に日本社会への貢献を続けています。

1987年に国際賛助会と東京YMCAが共に始めたインターナショナル・チャリティーランも、現在は、全国21YMCAで15,000人が参加する大きなイベントに成長しました。当時まだ「参加費を払って走る」という発想のなかった日本の社会にチャリティーの種をまき、今では大きな花を咲かせています。

Positive Net NEWS

新学期の登校見守りを実施

【熊本YMCA】

「何でリーダーいるの?」と登校時に少し驚く子どもたち。「今日から学校だけど、どうかな?」とのリーダーからの質問に、「やだー!」と、はにかみながらも笑顔での返事。さらに、夏休みの思い出で「六甲山のキャンプ楽しかったよ」とか「YMCAのプールで思いっきり遊んだ」など、新学期の朝、元気な声が行き交いました。



にぎやかな声で夏休みの報告

熊本地震の影響でいまだに仮設団地から学校に通う子どもたちがたくさんいます。YMCAスタッフが朝から横断歩道の誘導とバスに乗るまでを見守り、子どもたちと楽しく会話をしました。

夏休みが終わり、2学期が始まりました。とても悲しい出来事ですが、9月1日は全国的に子どもの自殺が多いというデータがあります。小さな体で一人悩みを抱えて、苦しんでいる子どもがいます。私たちに



気を付けて行ってらっしゃい

できることは少ないかもしれませんが、ちょっとした出来事から、一緒に考えてくれるリーダーがいる、楽しさも苦しさも共にしてくれる大人がいるという心の安心を子ども達が得られることができたらと思います。

今回の登校日の見送りは、そんな思いと、周囲への安全啓発の意味を込めて実施しました。

熊本YMCA 中村賢次郎

アジア・世界のYMCAから

□難民キャンプから始まった職業訓練校【東エルサレムYMCA】

東エルサレムYMCAは1952年に、聖書にもたびたび登場するエリコの近くに、イスラエルによる差別や不当な扱い、失業や貧困に苦しむ若者のために職業訓練校を開きました。ユース育成のビジョンに沿ったさまざまな活動も行っています。従来の電気や調理技術の他に、有機農法や再生可能エネルギーも学ぶことができ、パレスチナでの安定した暮らしができるよう若者たちをサポートしています。

*日本のYMCAは長年にわたり、この働きを支援しています。

□チェンジ・エージェントリージョナル・トレーニング in JAPAN 東山荘【アジア・太平洋YMCA同盟】

7月12日から17日まで国際青少年センターYMCA東山荘にアジア・太平洋地域の12の国と地域から33人のユーススタッフ・ボランティアの代表「チェンジ・エージェント」が集まり、トレーニングが開催されました。キリスト教とリーダーシップについての考察、川崎でのフィールドワーク、被ばくを受けた福島で生きる女性の映画などを通し、多様な地域社会と、そこにあるユースの課題を知り、自らの有り方を問い直す機会になりました。



リージョナル・トレーニング参加メンバー

●上記のトピックス詳細は日本YMCA同盟の「世界のYMCA」ページよりご覧いただけます。